

島根県歯科技工士会生涯研修

演題

義歯製作における設計と次世代の展望

名倉 努

4月から削り出しのハイブリッド冠が保険適用になり、また歯冠修復における技工工程においてCAD/CAM製作が工程を簡素化し、また歯科技工士最後の砦と言われていた義歯修復においてもCAD/CAM製作が一部可能になりつつある。このまま歯科技工は器械化が増々進むのでしょうか。

私自身保険歯科技工を中心に業務を行うなか、先進歯科診療を受けられるのは歯科技工全体から見ても3割前後の経済的豊かな患者に限られ、7割前後の患者は保険適用による歯科診療を受診していると感じています。

患者のQOLを満たす技工物を提供し歯科医師をはじめ医院に携わるスタッフの信頼を得るため、今回床義歯における歯科技工を再認識し、臨床現場における床義歯製作工程や勘所、歯科医師との連携など自身の経験など考察を交えながら紹介したいと思います。